

令和6年度第1回恵那市総合教育会議会議録

日 時 令和6年8月26日（月） 午後1時30分～

場 所 恵那市役所 西庁舎 4A会議室

会議次第 1. 市長、教育長あいさつ

2. 議題

「学びの場について」

・地域教育拠点施設について

出席構成員：恵那市長

教育長

教育委員

小坂 喬峰

岡田 庄二

後藤 伸子

樋田 千史

西尾 修欣

村松 訓子

まちづくり企画部長

企画課長

伊藤 豊

和田 信之

事務局： 副教育長

教育委員会事務局長

教育委員会事務局次長兼

学校教育課長

教育総務課長

教育総務課担当係長

工藤 博也

鈴木 幸宣

丸山 頼彦

瀬瀬 千尋

志津 博光

開 会（午後1時30分）

教育総務課長

皆さん、こんにちは。それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第1回総合教育会議を開催いたします。

本日は、教育総務課の瀬瀬、私が司会進行を務めますので、よろしくお願いをいたします。着座にて失礼をいたします。

この総合教育会議につきましては、皆さまご存じのことと思いますが、市長と教育委員が教育に関するさまざまな協議を進めながら、その方向性を検討し共有する会議となり、毎年2回ほど開催させていただいております。

また、本日の総合教育会議は、恵那市総合教育会議設置要綱第5条に基づき会議を公開し、第6条に基づき議事録を作成し公表されますので、よろしくお願いをいたします。

1. 市長、教育長あいさつ

教育総務課長

それでは、初めに、小坂市長よりごあいさつをいただきます。

市 長 皆さん、こんにちは。まずもって、今日は、皆さまにお集まりをいただきましてありがとうございます。また、日ごろから大変お世話になっていましてありがとうございます。

少しだけ近況を申し上げますと、先週ですけれども、8月21日にN校、S校の研究成果というか、現地研修会というか、勉強会の発表会みたいなものがありまして、今回は岩村の市営住宅をリノベーションしたらどうなるのでしょうかということを、4つのグループに分けて発表していただくような機会がありました。その発表の場に私たちも参加をさせていただいたところですが、現場を見て、実際に恵那に来て、事前に勉強と、それから、途中の検討は全部オンラインでやって、また今回恵那に来て発表をしていただいたということでございました。大変一生懸命に皆さんやっていたなというような印象ですし、非常にいい成果が出ているのではないかというふうに思っています。これも関東や関西や、あらゆるところに住んでいる子供たちが、オンラインでの学びを使って、一つの研修の機会として、それぞれ恵那の地に集まっていたということでございますけれども、そんな機会がありました。

第2弾は、来月9月21日から、今度は「みのじのみのり祭」に合わせて恵那の方にお越しいただいて、お菓子の研究というか、新作のお菓子を作るみたいなことを勉強するそうです。また、もし教育委員会の皆さまも機会がありましたら、ちょっとのぞいていただくなり、発表の場にお越しいただくなりして、オンラインで学んでいる子供たちの姿というのを見ていただけるといいのではないかなというふうに思っています。

今日は、地域教育拠点の設置施設についての議論でございます。ぜひ皆さまから活発なご意見をいただけますことをお願いを申し上げまして、冒頭のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

教育総務課長

ありがとうございました。続きまして、岡田教育長からごあいさつを申し上げます。

教育長 皆さん、こんにちは。教育委員会を代表しまして一言あいさつを申し上げます。まず、市長さんには、なかなかタイトなスケジュールの中で、本日、総合教育会議を開催していただきました。本当にありがとうございます。日ごろは、教育行政はもとより、園や学校のさまざまな取り組みに対しまして、市からご理解、それからご支援を賜っておることについて本当に感謝を申し上げたいと思っております。

今日は、地域教育拠点施設、もっと大きく言いますと、学びの場ということについて、市長さんと教育委員会が直接意見交換できる貴重な場であると捉えて

おりますので、ぜひ有意義な会にしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

2. 議題

「学びの場について」

- ・地域教育拠点施設について

教育総務課長

それでは、早速ですが、議題の方に入りたいと思います。本日の議題は「学びの場について」ということで、「地域教育拠点施設について」を議題としまして意見交換を行いますので、よろしくお願いいたします。

まず初めに、鈴木事務局長から資料に基づいて説明をさせていただき、その後に質問等を含め意見交換をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

教育委員会事務局長

地域教育拠点施設について説明。

教育総務課長

今、事務局長から説明がありまして、3ページ以降にいろんなイメージ図を用意しましたが、これは何かといいますと、生成AIを使いまして、職員みんなで考えました。一人の人が考えてしまうと、どうしても固定観念が出て、同じイメージしかできないので、職員のいろんな考えから、おしゃれであったり、温かい雰囲気がいいなとか、集中してできる空間だとか、自分だったらこんなイメージの学習スペースがあるといいなということを考えながら作成しました。事務局長が申しましたように、今までとはちょっと違った雰囲気の、ここなら学習しに行ってもいいなというようなイメージをつくりましたので、こうなるというわけではなくて、あくまでもこれはイメージとなります。こんな空間があるといいなというようなものをつくり出しましたので、よろしくお願いいたします。

今回の背景に当たっては、当然中学校の統合という問題もございますので、その辺が資料の1ページにコンセプトで書いてあります。この辺を踏まえまして、まずは、教育委員の方から、一通りの説明をした中でのご意見やご質問、感想等があれば、一人一人お伺いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。いかがでございましょうか。

西尾委員 西尾でございます。確かにサテライト的な学習スペースというのが、南地区の中学校の統合に当たって、こういったものを設置しようというような話が持ち上がったわけでありまして。これはある意味、学校に行けない子供等々を思えば、南地区に限らないことでもあるかなと。結局、旧恵那市の方の3つの中学校でも十分あり得るわけで、今回これが実際に設置されて、その運用状況によっては、ほかの中学校区にもやはり広げていく必要があるかもしれない。ま

た、そのためにも、いいものを造っていく必要があるだろうというようなことを、まずもって考えます。

それと、今、課長さんの方から説明があった、生成A Iで作ったイメージ図のことですが、その生成A Iに私も非常に興味がありまして、どういう条件を提示してこういったものが作られたのか。このイメージ図ができた条件は何か教えていただけるといいなというふうに思います。

教育総務課長

では、実際に私がどういうイメージで作ったかということを説明したいと思います。

7ページをお願いします。7ページ上段が、「おしゃれ・図書館」。実はこれにもう一つ「自主学习」という言葉を入れました。そういうキーワードを入れますと、上段のようなイメージが出てきます。この下の「カフェ・図書館」で言いますと、これも「カフェ・図書館・自主学习スペース」と入れ、こういうイメージが出てまいりました。ほかにも明るいイメージとか、いろいろありますけれども、一つの言葉ではなく、例えば、5ページには「集中」とありますけれども、「集中できる自主学习スペース」とか、そういった入れ方をして、全く関係ないようなものではなくて、学習できることを前提に、家でもない、学校でもない、子供たちがちょっと来てみたいような、そういうイメージを頭の中に置いて、生成A Iで作成したものがこちらになります。

樋田委員 樋田ですが、今、西尾委員が言われたように、恵那市全体のことを考えていくということが大きな問題だと思いますよね。恵南地域のみではなく、北中学校、西中学校、東中学校もあります。教育委員会としては、恵那市全体をどう見ていくか、それを考えるということが大事だと思います。今、コミュニティセンターは各地区にありますので、そちらを手厚くできないかなということを思います。

今、イメージ図が出てきましたが、2ページにある「未来キャンパス」。これは恵那市がやっていますよね。恵那のバローの2階にあるスペースですけど、イメージ図を見ると、随分違いますね。窓があるし、景色も見える。2階の方は囲まれているところなので、周りは見えないですよ。そこは、このイメージ図のように、未来キャンパスは今後変えていかれるのですか。ちょっと物理的に無理ではないですかね。植物なんかは置くことはできるけれども、ガラス張りはできない。ガラス張りにできたとしても外の風景は建物しか見えないですね。その辺のことで、この未来キャンパスの構想みたいなものをこれからどうしていくか。子供たちが結構通っているみたいなので、本当に魅力のあるキャンパス、3ページ、4ページにあるような環境にしていくことが可能ならば、していくといいかなということを思いました。

それから、一つ気になった言葉がありましたがいいですか。

最初のページに機能について説明がありました。自主学习ができる機能という

ところで、1行目に書いてある「学習意欲のある生徒に対して」という言葉、文言がありますが、学習意欲のない生徒に対してはどうなるかということです。勉強したいけれども、学校に行けない場合や、勉強したくないという生徒もいると思います。この夏休みが終わったら、学校へ行くのが嫌になったということが、テレビや新聞で盛んに言われています。何かあおっているような感じで、夏休みが終わったらもう学校に行きたくない、そういう子供が増えていくということを言っていますね。その前に、南海トラフで、地震の予防のために備蓄をなさいと言って、店舗に水や米がなくなってしまいましたね。あれも一つのあおりのような気がするのです。だから、不登校になるとか、そういう面はいろんな理由があると思いますが、学習意欲のある生徒に対して造っていくのではなく、学習意欲のない生徒、行きたいけど行けない、そういった生徒に対してどうやって手厚く接していくか、コミュニケーションの力を付けていくか、そういうところも考えていくことが大事ではないかということを思いました。

後藤委員 後藤です。よろしくお願いします。

先ほど西尾委員や樋田委員が言われたように、恵那市全体でこういった場所を提供していくというのは、とても大事なことだと思います。未来キャンパスに関しては、今だと使えるのは高校生ですよ。小中学生はなかなか行き場所がないというのもあります。恵那峡ビジターセンターは、私も先日行きましたけど、今、大井ダム100周年で、すごいパネル展示がしてあって、とても見ごたえがありました。ふるさとのそういった文化とかに触れる場所という感じで、とてもいいなと思います。だから、こういった場所もとてもいいなと思います。ただ、ここで勉強ができるかという、なかなか難しいかなとも思うので、その2つのコンセプト、「勉強ができる場」「ふるさとのことを学ぶ場」というのを一緒にし過ぎてしまうと、どっちつかずにもなってしまうなと思います。特に学校へ行けずにその場を使いたいという子がいた場合に、そこへ校外学習でほかの子たちが大勢来た。じゃあ、その子はどうするのかとか、そういった問題も出てくると思いますので、その辺もまた深く考えていく必要があるかなと思います。

あと、一つ気になったのは、自宅でも学校でもない空間ですけど、そこで学校に行けずに勉強している子がいたとしたら、授業数が認められるのか、学校とオンラインでつないで授業をするのか。また、恵南地区で言えば、バスに乗り遅れて今日はここで勉強するということになったときに、そういったことができるのか、あとは、学校の相談室や支援室との違いというのも、本来であれば学校の相談室等を利用した方がいいとは思っているので、その辺の違いというのも、今の段階で言えること、教えていただけることがあれば、教えていただきたいと思います。

教育委員会事務局長

まず、学校と学校の校内支援センター、それから、相談室との違いですけど、学校へ行くことが難しいという子が使う場面で、家からは出られるけれど学校へは行けない。かといって、学校へ行ける日もあるし、行けない日もある。いろんなパターンがあると思うので、そういうセーフティーネット的な使い方というのも一つの方法というところですよ。そこをメインにするのではなく、先ほどの樋田委員の発言にもありました、学習意欲のある生徒に対するというところ、少し言葉足らずで申し訳なかったですけども、どんどん学んでいきたい子も使う場所にもする一方で、ちょっと学校へは行けないけど、何とか勉強はしたいという子も使いたい、そんなような少し幅をもたせた使い方をしたいなと思っています。学校へ行くことが困難な子を軸にするわけでもなく、かといって、そういった子は来てはいけないというわけでもなくというような位置付けが必要かなと思っています。校内の支援センターで学べる子は、校内の支援センターで学べば一番いいと思いますし、教室に入ることができれば、さらにいいかもしれない。その前段階というところで、今、むつみ教室とか、はなのき教室がありますけど、そこへ通うまでもないような、そんな人が使える場所にしていきたいというところですよ。そこへの登校がどうなるかというのは、今後、学校現場等も含めた調整が必要になると考えています。以上です。

樋田委員 場所提供も大事ですが、今の話だとスタッフがすごく重要になってきますね。いろんな子供が来るので、コミュニティセンターにどういう職員を配置するか、そういう専門的というか、OBとか、いろいろ考えていく必要があると思いますし、職員・スタッフの問題もこれから出てくると思います。それから、そこへ行く手段は、保護者が送迎するのですか。

教育委員会事務局長

基本的にはそういうことです。

樋田委員 そういうことですね。ということで、施設のスタッフが大事かなということを感じました。

村松委員 それに関していいですか。村松です。

コミュニティセンターは、各地域の振興事務所の近くにとというか、連携していますよね。コロナが始まってすぐに休校になった時に、朝、仕事に行かなければいけなくて、子供たちをコミュニティセンターまで送った時に、コミュニティセンターの職員の方も振興事務所の職員の方も、本当に臨機応変にあのときに対応してくださっていたんです。何十人も来たんですけど、学校の先生ものぞいてくださる、保護者の方も送り迎えしてくださる方も、その大変さをすごく理解してくださっていました。何十人も来たにもかかわらず、感染もなく過ごせたということで、何かこういう時のためにコミュニティセンターはやっぱり必要だなと、そのときにすごく痛感しました。子供たちの居場所ということとか、何かそういう緊急事態のときに、学校でもない家でもない居場所というのが。そのときは、明智だったんですけど、振興事務所の職員の方も子供たち

を見てくださったり、学童の先生や学校の先生ものぞいてくださったり、私も2、3回行きましたけど、その連携がすごくすばらしくて、やっぱり各町村にこういうコミュニティセンターって大事だなとすごく痛感したのです。こんないいところがあれば理想的というか、各コミュニティセンターに図書の本もありますし、学習するスペースもありますし、こんなふうに生かせたら本当に理想的だなと思うのですが、やはり樋田先生が言われたように、一番気になるのは、不登校の子が行ったときに対応してくださる職員、人材確保が私は一番気になっています。やっぱり緊急の時にそうやってみんなで支え合っても、日常的に関わってくださるそういった専門のスタッフの方を各地域、岩村も明智も、もちろん旧恵那市の方も、どれだけそういった人材が確保できるのかなということにかかると思うのです。環境整備というのはすぐにはできないですけど、本当に学校に行けない、取りあえずどこかに行きたいというのは、もう既に今日から始まっているような、日常で一番考えなければいけないことなので、私もやっぱり気になっているのは、人材確保だと思います。

西尾委員 まだ整備についての構想の段階だと思いますので、具体的な規模だとか、設計だとかということは、まだ話は進んでいないとは思いますが。この構想に沿って、各地域にこういった拠点施設を設置する、これは大変結構なことだと思います。先ほどの、この整備についての文書の中にもありましたけれども、地域との連携の場所でもあるということになると、今日、企画の方からも来てくださっていますけど、学校のことだけではないよというようなことも、当然その中に取り入れた造りにする必要もあるだろうと思います。あと、その場での自主学習というのは、もちろんその機能もスペースも要るのですが、もう少し規模の大きなスペースも要るのではないのかなと思います。例えば、地域で、地域の子供をみんな集めて伝統芸能だとか、そんなような話をさせていただく際に、ある程度のスペース、規模も必要になるだろうというようなことを考えると、今のコミュニティセンターの中に、それぞれの造りが違うと思いますが、その辺りを上手に組み入れた設計をしていただくと必要があるだろうということで、学校のサテライト教室的なものプラス、地域とのいわゆるコミュニティセンター的なスペースというものも兼ね備えたものにする必要があるだろうと思います。

教育委員会事務局長

今の部屋のお話になりますと、各地域にはそれぞれコミュニティセンターがあって、その中に集会室というか、ある程度の広さの部屋というのは、それぞれのところで設置はしてあると思います。学校が休校になっても、全校全員がそこへ行くのかというような議論もあります。例えば、今度、台風が来そうですけど、そういうようなときは学校が休校になりますが、全校全員がそこに登校するというわけではないというところですが、学年別にそこへ行って学ぶということはあると思います。なので、そういった時には、今ある広い部屋を利用

させてもらいながら、使っていきたいということは思っています。

それとは別に、専用というわけではないですけど、ロビーではなくて、この子たち専用だけではないような使い方もできるスペースにもしたいと考えています。あなたたち小中学生ではないから、そこは使っては駄目だよというふうにはしたくないという考えはあります。特に南地域でいえば、新しく恵那南中学校ができた後に地域で学習する場というところは、地域のご指導いただく皆さんもその場へ来ていただいて、今までと同じような環境でご指導いただきたいと思っています。それから、スタッフの確保という面でも、コミュニティセンターの職員であったり、あるいは、皆さんのような先生方のOBの方で手を挙げていただいたり、そういったいろんな意味での確保というのは必要かなと思っています。

教育総務課長

せっかくですので、企画部長、企画課長いかがでしょうか。

まちづくり企画部長

皆さん、改めまして、こんにちは。まちづくり企画部長の伊藤でございます。よろしくお願いします。

今しがた、地域とのつながりのようなお話もございましたけれども、統合にあたって心配というか、子供が地域からいなくなってしまうというようなことを言われる方もおられますけれども、今回はコミュニティセンターを中心に、これを考えていくということで、休日なり放課後なりに、中学生がコミュニティセンターのそばの部屋を利用するということであれば、日頃コミュニティセンターは地域の人が利用するところでありますので、今まで以上に中学生との触れ合いというか、伝統文化伝承以外の触れ合いみたいなことができる可能性があるなというようなことを思っております。

それから、先ほどの、誰でも利用ができるようにという話で、今は中学生の想定ですが、もしかしたら小学生も来るかなとも思いますので、お兄ちゃんやお姉ちゃんの姿を見ながら、また地域に溶け込んでいくような、そういった姿も見られればいいなというふうに思います。

それから、伝統文化の受け継ぎの話であります。今、中学生が伝統文化を引き継いでいくみたいなことになっていて、その中学校が移動するということで、これからどうなるかなということを思われるのだと思うのですが、今の中学生よりも、今、生まれた子たちが中学生なら3分の1以下になります。今、統合しなくても減少の傾向であり、どうやって引き継いでいくかということは、もう絶対考えなければいけません。恵那北中学校では、3町で統合したのですが、地域の枠を越えて伝統文化の受け継ぎの方法をやっておられて、歌舞伎であったり、舞であったり、そういったものは地域の枠を越えて、中学生がほかの地域であっても受け継いでいくようなことが始まっております。この恵南地域についても、自分の地域だけではなくて、ほかの地域も一緒になって

どのようにしていこうかということ、これからも考えていくことが必要かなというふうに思います。この拠点施設の利用の仕方以外にもそういった課題もあるので、これから順番に考えていく必要があるのかなというふうに思っております。以上です。

企画課長 企画課長の和田と申します。よろしくお願いします。

先ほど樋田先生から未来キャンパスのお話に少し触れていただきましたけど、今、「新しい学びの場の創設」ということを考えています。コロナ禍で、大学の授業がオンラインで始まったときに、あえて大学へ通わなくても、身近な場所で高度な学習ができるということを目の当たりにしました。恵那市の課題というのが、大学がないので、どうしても都市部の大学へ若い方が出て行ってしまうという点があります。地方でも大学のような学びの場ができるといいなという、そういった考えから、冒頭、市長のあいさつにもあったように、N高とかS高という通信制の高校との連携やZEN大学という大学も来年度認可に向けて通信制の大学をつくる予定にしていますけれども、こういったものが地方の一都市に拠点となるような場所ができないか可能性を探っています。未来キャンパスはその第一歩として始めた施設です。そういったことで、オンラインでいろんな学びができると、そういった施設が地域にあるといいなというところから始めて、繰り返しになりますけれども、今まで皆さんがおっしゃったご意見も、新しい学びの形として、一つの成功事例としていいものができればいいなという、こんなふうに考えております。以上です。

教育総務課長

今、新しい学びの場ということでお話がありました。今回、一部の中学校、恵那南中学校の統合に当たってやっぱり心配されるということが、ちょっと地域が寂れてしまうというお話もあって、先ほどから伝統芸能文化が失われてしまうのではないかなというようにもお話がありました。

具体的な例を申し上げますと、例えば、明智町でいうと、山本芳翠の勉強を1学年まとめて学習をする。明智光秀の学習をまとめて学年でやる。例えば、岩村町ですと、佐藤一斎先生の勉強を学年ごとでやる。そういうようなことを、今、実際に総合的な学習の時間の中でやってみえます。そういったところが、統合してしまうとできなくなってしまうのではないかなという具体的なお話があります。そうではなくて、5つの中学校が統合するのだから、今度は、中学校の方たちが、その対象となるコミュニティセンターの方に、例えば、スクールバスでまとめて来ていただきます。そうしたところに、地域には教える方がたくさんみえますので、そういった方を講師に招いて、今度は恵南を一つとして考えて、明智だけではなく、岩村だけではなくて、皆さんにそういった学習をしていただくという、そういったような教育環境を整えていきたいなというもの一つあります。追加の説明となりますが、よろしくお願いをいたします。そのほか教育委員さんの方から何かあればお願いします。

樋田委員 これはもうスタートしていくのですね。整備もしていく、そういう日程みたいなものはもっていますか。

教育委員会事務局長

地域によっていろいろな条件が違いますけども、まず、スタートとしては、令和8年4月の開校に併せて、こういった場所もスタートをさせていきたい。ただ、ハード的な整備としては、それぞれいろいろなパターンがあるので、全部一斉に整備してスタートというわけではなく、今ある既存のコミュニティセンターを当分は使いながらというような場所もあれば、ある程度整備をしてスタートする施設など、いろんなパターンがあり、5パターンあると思っています。全部同じように仕上げをして整備するという意味ではなく、例えば、コミュニティセンターの建て替え計画があるようなところは、それに併せて整備していくとか、そうでないところは、内装だけ整備するとか。

この夏に「中学生と恵那市の未来を語る会」がありましたけど、その中で、串原中学校の提案は、今ある中学校を、まさにこういった形で使うことはできないですかみたいな提案もいただいたので、そういうところを軸にということも考えるかもしれないです。パターンとしては、それぞれの5パターンで考えていきたいなと思っていますが、一応スタートとしては、この開校に併せて位置付けはしていきたいと思っています。

樋田委員 分かりました。

教育総務課長

教育委員さんの方からは、ほかによろしいですか。

後藤委員 恵南地区の5つの地域に関しては、Wi-Fiはつながぐのでしたか。

教育委員会事務局長

つながります。

後藤委員 全てつなげるようにできる。例えば、もうモニターも設置の用意もある。地域によっていろいろと変わってくると思いますけど。

教育委員会事務局長

そうですね。そうした備品類も含めてということです。

後藤委員 なぜかというのと、お互いに地域の交流をする時に、一つの場所に行って、例えば、太鼓の練習で、違う場所でもそれぞれのモニターを通じて練習できるとか、そういうことができるのかなと。

教育委員会事務局長

Wi-Fiだと大型のモニターなんかは、やっぱり学ぶ場所としては必須なものになるのかなとは思っています。

村松委員 生徒さんとか保護者さんの意識というか、コミュニティセンターがこういった身近なものになるよ、いつ行ってもいいんだよって、勉強もできるし、一息つけるしといった、そういう意識を植えつけるではないですけど、ここにも居場所があるんだとか、ここにも学習するスペースがあるんだ、ここ行ってもいい

んだというような宣伝といいますか、そういうのもどんどん生徒さんや保護者さんに向けてしていったらいい。普段、講座とかで利用しないと、なかなかこういうところがあるんだというのを周知されなかったりするんで、そういうこともぜひお願いします。

教育総務課長

そのほかよろしいでしょうか。

そうしましたら、一通りのご意見出ましたので、全体を通じまして、市長の方からお願いできますでしょうか。

市 長

まず、委員の皆さまから大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。皆さんからいただいた意見を聞くと、特にこれが必要ないというふうには捉えていないように思っていて、整備した方がいいのではないかと、いう前向きなご意見をいただいたのかなというふうに理解をしています。

一つ、先ほどから話がありますけども、コミュニティセンターが本来果たすべき役割じゃないかというのが、きっと根本にはあると思うのですが、恐らくコミュニティセンターもしくは公民館と言われるものですね、もうリデザインするというか、新しくリニューアルすべきタイミングかなというのを思っていて、そういう意味では、今回のこうした機会を一つのきっかけとして、より利用しやすいものにできたらなというふうに思っています。

それから、あともう一つ。地域で学ぶということをやっぱりもう一度ちゃんと考えて、学校で学ぶことも大事なのですが、本来子供たちの学びというのは地域の中でもあるわけですし、地域の歴史だとか、文化だとか、それから家族だとか、友人だとか、近所の付き合いの中、もしくは自然の中でいろんなことが学べるわけですので、そういったところが学ぶ機会を設けるという意味でも非常に大切ななというふうに私どもは思っています。

もう一つは、学校での学びというのがどうしても、一つのシステムとしては専門的にそれぞれの教科を学ぶというのがあるわけですが、それとは別に、それが進めば進むほど、やっぱり地域や地元との距離感というのが出てしまうので、そういう意味では、学校の学びの範囲を少し広げるという意味も、その中には含まれてくるのではないかなというふうに思っております。見方を変えると、学校での学びというのは、同学年の友達と一緒に学んでいくという意味では、横がつながることなのだと思いますけど、恐らくこれが地域の教育拠点みたいなところでいくと、今度は上とか下とか、縦の学びももしかしたらあるかもしれません。そうすると、中学生が中心になるかもしれませんが、先ほどお話に出たように、小学生だとか、例えば、子育ての話がそこに出てきたりすると、地域の中では縦のいろんな方々が学ぶというような活用の方法もあるのかなというふうに思っております。

生成AIの中でイメージ図を幾つか出していただきましたけども、こういうような学びの拠点がそれぞれの町にあったら、新しい学びの形としてこういう使

い方もあるのではないかというのが、まだこれから、今日の意見も踏まえて、
どんどん出てきそうな気がします。そこに可能性があるのかなというふうに思
っていてまして、恐らくこれは、日本中の各地方が、これから子供たちがどんど
ん減っていく中で、学びの確保をどうやってこれから維持していったらいいの
だという、日本中が悩む一つの私たちのもつ答えとしてですね、この地域教育
拠点施設をいい具合に学校と地域の間に建てるような、そんな施設にできると
いいなというふうに私も、今、皆さんの意見を伺いながら考えたところでござ
います。

今日はコンセプトを提案させていただいて、恐らく、全体の方向として、こう
いうのを設けていく方向でいきたいということを事務局の方が言いたかったの
だろうと思いますけども、これから教育委員会を毎月のように重ねる中で、も
う少し具体的にコンセプトとか、重点を置く場所とか、軸足をどこに置くんだ
というようなことを決めていただいて、より具体的に、そして、実効性のある
ものにしていけたらというふうに思っております。

今、私が感じたのは、以上のようなことでございます。

教育総務課長

ありがとうございました。

今、市長がおっしゃいましたように、これから教育委員会は定例会議でこれの
実現に向けまして、具現化するためのご意見の方もお聞きしていきたいと思
います。

それでは、最後に教育長からお願いします。

教育長

多くの場合、今、学びの場といったときに、不登校の子が今増えているので、
その子供たちの学びの場をとということが話題になることが多いと思います。恵那
市としては、もちろん不登校の子も含めてなのですが、世の中が本当に多様
化してきて、学校だけで学びが完結したりということはやっぱりあり得ると思
うのです。地域の力も借りたい、保護者の力も借りたいと考えたときに、
様々な学びの場があるといいなということと、拠点ということで、ここから広
がっていく。例えば、保護者の人が集まってきたりすることもあるかもしれない
中で、保護者の人が集まってきたら、今度こういうことやらないかのような、
そういうきっかけにもなるような場をつくれるといいなと思います。だから、
もちろん施設の限界もあるわけで、100人来たらどうなりますかとか、
今こういうことやっているのに、私も勉強したいですけど場所をつくってください
と。そこはやっぱりお互いに譲り合ったり、いろいろ調整したりということ
であって、まずは、そういう場がなかなか今ないわけなので、そこをつくっ
ていきたいなということがあると思うのです。その中でももちろんこういう子も、
だんだん来る子もちょっと絞られてくるとは言いませんけど、分かってくるこ
ともあった時に、じゃあ、もっとこういうことした方がいいのではないかと
いうことでやれるといいなと思います。今からこの子供たちのためだけということ

ではなくて、本当に学びの場で、さっき言ったスタッフについても、私たちも思うのですが、退職の先生方に頼むにしても、今、難しいところもあって、定年が65歳まで伸びていくと、65歳からやってくれるのだろうかという思いもあります。例えば、地域でも本当に優れた力をもってみえる方、教え方が上手い方もみえるし、算数・数学なら教えられるよとか、いろんな方がみえるはずなので、これを含めてできれば、地域の方とか市民の方にも、地域の子たちを育てるということで、少しでも何かご協力いただけるようなきっかけになればいいのかなと。もちろん退職した先生方には頼みたいなど。この前も退職校長会があったので、ぜひお願いしますと言ったのですが、みんなうーんと言って、地域でやるのが精いっぱい。未来塾を今、2か所か3か所ぐらい地域の方が教えてくださっています。それは、例えば、塾へなかなか行けないということであったり、中学校3年生をターゲットにしているので、進路実現に向けて頑張りたいということもこういうところでもできるといいかもしれないし、可能性はたくさんあるなということを思っています。問題もたくさんあるのだけれども、その辺も含めて前へ進めていけるといいなと思っておりますので、ぜひ市長部局からもご協力いただいてやっていけたらと思っています。もちろんそれが恵那南地区だけではなくて、恵那市全体がそういうふうになるようにということで、一斉にはなかなか難しいところもありますが、やれるといいなということを思っています。ぜひよろしく願いしたいなということを思っています。

教育総務課長

ありがとうございました。

本日は、委員の皆さん、それから市長部局の方も、こういった教育拠点施設については前へ進めていくというようなことを確認が取れましたので、事務局としましても、令和8年4月1日の恵那南中学校の開校に向けて、実現できるように前へ進めていきたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、これにて第1回恵那市総合教育会議を終了します。皆さまありがとうございました。